安積開拓入植者住宅（旧小山家）とは？

安積開拓入植者住宅（旧小山家）

平成5年（1993）に小山家の子孫により入植者の住居が郡山市に寄贈された。平成8年（1996）に郡山市の重要文化財に指定され、郡山市開成館の敷地内に移築復元された。これが、「安積開拓入植者住宅（旧小山家）」である。

「安積開拓入植者住宅（旧小山家）」は、当初明治15年（1882）4月に牛庭原（現在の郡山市安積町牛庭地区）へ入植した室崎久遠が建築、居住した建物である。久遠は、父母、三人の妹と共に入植した。文久2年（1862）に誕生した久遠は当時20歳であった。明治21年（1888）に病のため、養子の栄治郎に家督を譲る。室崎家は、明治32年（1899）まで牛庭原に在住していたが、その後転出した。

室崎家の転出後、この住宅に入居したのが小山宇太次である。宇太次は、久遠と同じく旧松山藩士（愛媛県士族）の入植者で、妻と6人の子、妹と入植した。宇太次の弟たち3人や他家を継いだ宇太次の息子も各々入植している。

住宅は、室崎久遠の養子・栄次郎により厩舎などが増築され、その後小山家が数回に渡る増改築を行ったが、原形部分が残されていた。復元整備にあたり、「安積開拓入植者住宅（旧小山家）」は、当初の入植者住宅の姿となった。

安積開拓入植者住宅（旧小山家）復旧工事の様子（北側）

安積開拓入植者住宅（旧小山家）復旧工事の様子（南側）

安積開拓入植者住宅（旧小山家）復旧工事の様子（玄関）

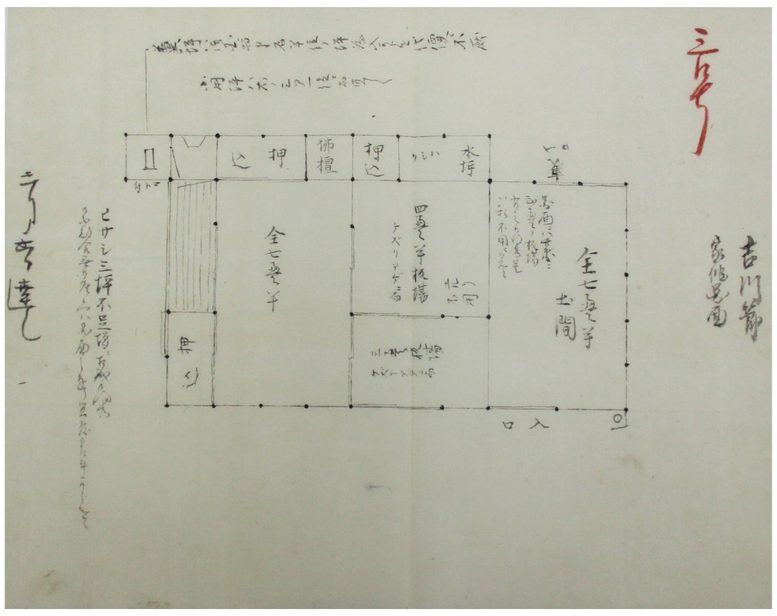
安積開拓入植者住宅（旧小山家）にはなぜ囲炉裏がないのか？

「安積開拓入植者住宅（旧小山家）」には、囲炉裏がない。これは、建築された当初の囲炉裏がない姿を復元したからである。

福島県が作成した基準図には囲炉裏が切られている。しかし、鳥取からの移住者が残した図面でも「イルリ不用（囲炉裏不要）」と書かれるなど、囲炉裏が設置されないケースが見られる。なぜ室崎久遠は囲炉裏を作らなかったのか。

恐らく、久遠の故郷である温暖な愛媛松山では、暖を取るのは囲炉裏ではなく、火鉢であったと思われる。また、士族であれば囲炉裏を囲むこともなく、その必要性を感じずに、不要なものとしたと推察される。また、住宅建築の際に補助金を超える費用は自己負担であったことから、資金面での節約があったのかもしれない。

入植後、実際に生活をする中で囲炉裏が造られている。



住宅間取図

宇倍神社文書　宇倍神社蔵
鳥取開墾社の住宅間取図。「ユルリ不用（囲炉裏不要）」と書入れがある。